

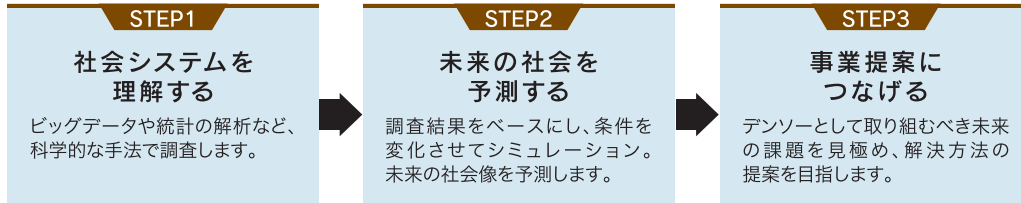
未来予測を通じて、 将来のデンソーの事業提案につなげていく

社会科学研究室は未来の社会を予測することで、デンソーの将来の事業提案を行うことを目指しています。予測を行う上で大切なのは、まずは科学的に現在の社会システムを理解するという点です。私たちは社会の中でもまずは交通分野を対象を絞り、研究を進めています。

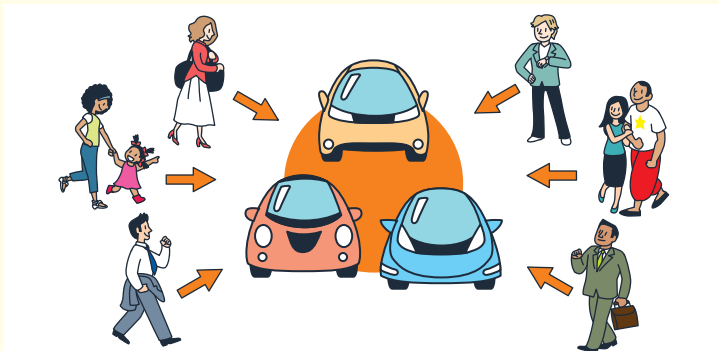
将来のデンソーの事業成長にとって、価値ある活動にしていきたいです！



先端研究部 社会科学研究室 鎌田 忠さん



PICK UP! 自動運転シェアカーの可能性を予測。人の価値観は「所有」から「共有」へ？



アメリカで生まれた配車サービス「Uber」が注目されるなど、シェアカーに対する社会的な関心が高まりつつあります。そこで2030年の社会における自動運転シェアカー*の影響を見極め、デンソーとして事業提案を行うことを目指して、名古屋大学と共同で名古屋市名東区を対象とした研究を進めています。

*自動運転シェアカーとは
レンタカーよりも短時間の利用を想定しており、配車依頼すると迎えに来て目的地まで移動できる自動運転車。渋滞緩和や駐車場が不要になるなどのメリットが想定されている。

【予測を行ったポイント】

どのような条件で普及する？

数理的モデルを使って、人間が「マイカーよりもシェアカーを使いたい」と感じる2つの条件を導きました。

【条件1】
マイカー所有よりも
低コスト

【条件2】
配車してからの
待ち時間が**1分以内**

普及したらどんな社会になる？

待ち時間1分でスムーズな運用が可能な社会をシミュレーションで予測しました。

マイカーが無くても
350台のシェアカー
があれば全ての住民の
移動をまかなえる

(2015年の名古屋市名東区における車両台数は約7万台)

人間は受け入れられる？

「自動運転シェアカーが普及したら利用したいか？」という住民アンケートの結果をもとに人間の価値観を予測しました。

シェアカーを利用したい **45%** マイカーを利用したい **55%**

約半数の住民が
「共有」の価値観を受容

2030年、車は「所有」ではなく「共有」することが当たり前になったとしたら、デンソーの技術開発はどのように変化していくべきだと思いますか？
必要とされる技術・製品は大きく変わってくるのかもしれませんが。



先端研究部 社会科学研究室 堀 大介さん

都市部だけではなく地方でのシミュレーション、またコストや待ち時間以外の価値探究にも取り組み、社会変化を見極めた事業提案につなげていきたいです。

先端研究部 社会科学研究室
山本 真之さん(左)、服部 佑哉さん

INTERVIEW デンソーとの共同開発、いかがですか？



分析の精度、確実性と分析コストのバランス感覚など、着実に研究を遂行しようとする御社の姿勢には学ぶものがあります。将来の交通社会をより魅力的にするために、今後も移動のさまざまな可能性を探索し続けてください。

名古屋大学 未来材料・システム研究所 山本 俊行さん